

地域情報

交配がいない「PC筑陽」を大幅導入。

J A 熊本市茄子部会は今年も順調に出荷中！！

(一社) 熊本県野菜振興協会熊本市支部

J A 熊本市茄子部会（164人、76ha）では、昨年まで2割であった単為結果性品種「PC筑陽」が、今年は8割強と主力品種となりました。当品種は、交配が不要なため省力化であり、秀品率が高く収量が多い等多くの長所がある反面、草勢が弱く、収量の波が大きい等の短所もみられます。しかし、昨年の調査結果及び、栽培者の経験を参考にして、今年も順調な出荷が続いています。

熊本市は、市町村ごとのナス栽培面積が日本一であり、ナス栽培における天敵の利用率が7割を超える等農薬の使用を控えた栽培が行われています。また、耐候性ハウスの割合も半分を超え、CO₂施用率も8割程度と高度な施設装備による環境制御技術を駆使して、安全安心かつ効率的な生産が行われています。

本年産の出荷も順調に9月から始まり、来年6月下旬まで続いています。収量の増加や収穫の波を無くした平準化や高度な統合環境制御装置の検討等、より良い産地への発展を目指して、関係機関一体となり取り組んでいきます。

本年も、品質管理の徹底を行い、安全・安心なおいしいナスを自信をもって全国の食卓にお届けいたします。



左上 「PC筑陽」現地検討会

右上 統合環境制御装置

左下 耐候性ハウス